【実行団体用】

事業完了報告書

提出日：2023 年 4 月 14 日

1．事業概要

（1）実行団体名：特定非営利活動法人フードバンク信州
（2）事業名　：　食の循環システム構築事業
（3）事業実施期間：　2019 年 3 月～2023 年 2 月
（4）資金分配団体名：公益財団法人長野県みらい基金

2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑　完了　／　☐　整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
（2）　整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
☒　全て公開した　／　☐　一部未公開　／　☐　未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。
（3）　変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☑　変更があり報告済　／　☐　変更があったが未報告　／　☐　変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1） 社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（2） 内部通報制度は整備されていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。（複数選択可） ☑ 内部に窓口を設置 ／ ☐ 外部に窓口を設置 ／ ☐ JANPIA の窓口を利用
（3） 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（4） 関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（5） コンプライアンス責任者を設置していましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。

（6） ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。
（7） 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。（実施予定の場合を含む）
☐ 外部監査 ／ ☑ 内部監査 ／ ☐ 実施予定もない ※（複数選択可）
→上記で「外部監査」または「内部監査」を選択した場合、その実施者を記載してください。 フードバンク信州監事（役員）
（8） 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
☐ はい ／ ☑ いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

（1）シンボルマークの活用状況
☐ 自団体のウェブサイトで表示している ／ ☑ 広報制作物に表示している ☑ 報告書に表示している ／ ☐ イベント実施時に表示している ☐ その他 →「その他」を選択した場合は記載してください （自由記述）：

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）	有	○〔TV〕 ・2022/5/29　長野朝日放送　長野パルセイロゲームでのフードライブ協働開催番組作成（SDGｓ） ・2022/10/27 信越放送　ＳＢＣニュースワイド子ども応援プロジェクト取材放送 ・2022/12/22　NHK ニュース　子ども応援Ｐ取材放送 ○〔新聞〕 ・2022/10/2 信濃毎日新聞 長野県広告ページで FB 活動広報 ・2022/11/10　〃　困窮者支援止まらない需要 ・2022/12/10　〃　フードドライブ協力呼びかけ ・2022/1/26　〃　休眠預金助成事業報告会掲載
広報制作物等		
報告書等	有	３年間の取り組みまとめ

5. その他（本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。）

助成期間中の３年間は、新型コロナの感染拡大による世帯の増加と SDGｓへの関心の高まりという社会情勢が重なった状況もあり、食品ロス削減による食料循環型の活動への参加、関心の高まりにつながった。結果として、これまでつながっていなかった機関、団体や企業との連携が進み、組織強化には効果があった。今後食料や生活用品などを継続的に循環させて貧困の軽減につながるような社会づくりをどう進められるかが課題となる。そのためには、ＮＰＯなどの民間活動に依拠するだけでなく、行政や企業等が活動の基盤強化の役割を担って社会の仕組みづくりを進める体制が求められる。

【添付資料】

活動の様子がわかる写真　５枚程度

JANPIA の事業報告書や WEB サイト、SNS 等で公開可能な写真を５枚程度（1 枚 2MB 以下）ご提出ください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください。）

それぞれどんな場面の写真なのか、1 枚あたり 50 字から 200 字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもって JANPIA での使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えのない写真（使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等）を選んでいただきますようお願いいたします。

長野朝日放送と地元のサッカーチーム「ＡＣながのパルセイロ」とフードバンク信州の３者がコラボで、ホームゲームの会場でフードドライブを開催しました。朝日放送はＳＤＧｓの広報番組で取り上げたもので、ＣＭでFD企画を継続して流し、サポーターがゲーム観戦に併せて食料を持参し、食料循環の新たな理解者が広がりました。

コロナ禍に対応して、子育て中の世帯を食で応援する企画「コロナ対応子ども応援プロジェクト」を2020年から2022年度まで３年間継続して実施しました。Webから個人の申し込みを受け、各世帯に直接郵送で食料を届けるプログラムです。発送に参加するボランティアも定着しました。３年間の延べ支援数は、約6,730件となりました。

「子ども応援プロジェクト」で支援する食料は、毎月約2.5トン。発送前はこの倉庫だけでは保管できないため、県社協や関係団体と連携して運営している協同倉庫にも保管して、食料の効果的な循環を図っています。
食料循環の仕組みづくりには、地域の協同倉庫が大切な資源といえます。

フードバンクでは、通常賞味期限が 1 か月以上ある食品を扱っていますが、コープながのの協力により配達用の予備のパンの活用を図れないかということで検討。希望するいくつかの支援団体が毎日順番を決め、確実に受け取り活用するという仕組みをつくり、パンの寄贈が実現しました。新しい食品のお届は大変喜ばれています。

宮城県の農家からコープながのにお米 400 kg（1 kg単位で小分け）が寄贈され、コープながのからフードバンク信州に届けられました。フードバンク信州からは困窮者支援をしている団体に提供し、団体から個別の世帯に郵送されました。
県外生産者、県内物流事業者、地域の困窮者支援団体がフードバンクをハブにしてつなが広域の食料循環活動が実現しました。